

□議員名：山田伸幸

1 いじめ不登校について

論点	いじめ認知件数と不登校の数がここ３年間で急速に伸びている。本市ではどのように対応しているのか。
回答	状況を分析して学校全体で組織的に対応していく必要があると考えている。各学校では特別支援教育の視点を取り入れた発達支持的生徒指導を進め、子供たちが安心して楽しく過ごせる魅力ある学校づくりに取り組んでいる。教育委員会として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置、教員の研修などを行い、学校と一緒に問題解決するなどの支援をしている。

論点	子供一人一人に対して、状況を細かく見て柔軟な対応が必要だと言われている。そのためには、多くの事例に対応できる指導員の配置が必要だが、本市では指導員の配置は足りているのか。
回答	支援員は、学校教育課が中心となり、担当の指導主事が不登校等についても対応している。心の支援室を置き、そこに教員ＯＢなどの相談員を置いているので、協力しながらみんなでやっている。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど外部の人の御意見も聞きながら進めている。

論点	文部科学省が２０２３年１１月１７日付の対応として、不登校児童生徒への支援の充実という文書を発出している。この中では、問題に対応するために校内教育支援センターの設置と支援体制の充実が求められている。本市では校内教育支援センターは設置されたか。
回答	校内支援センターにつきましては、加配の教員が必要であることから、県の事業として進められている。現在、本市には２校の中学校で校内支援センターを設け、加配の教員をつけていただいている。

2 ICT教育について

論点	タブレットを全生徒児童に持たせてのICT教育が進められているが、取組は進んでいるのか。
回答	全国学力・学習状況調査においてICT機器の使用頻度が高いグル

	<p>ープの児童生徒については、各教科の正答率が高いとの結果が出ている。本市でも、先日行った全児童生徒対象の学習・生活調査において、「端末を使った授業は自分のためになっていると思うか」という設問に対し、小学校では95.4%、中学校では94.4%が肯定的な回答をしており、ICTを活用した授業が子供たちにも浸透していると考えている。</p>
--	---

<p>論点</p>	<p>ICT教育を進めていけば、逆に学力の低下、集中力の欠如あるいは学習意欲の低下につながるということが世界的な調査で明らかにされている。ICT先進国の一つであるスウェーデンでは、ICT教育を世界でもトップクラスで活用してきたが、今では電子教科書から紙の教科書、さらには紙のノートの使用に戻しており、紙のノートにペンを走らせることで、書いたことの記憶が向上し、学力の向上に転じていった。このことについてどう思うか。</p>
<p>回答</p>	<p>文部科学省においてはICTの活用を進めており、本市も同様にする。その中で、デジタル端末は文房具の一つという捉えであり、デジタルの力でリアルな学びを支援することというのが大きな方針である。本市においても、子供の発達や学習の必要に応じてデジタル、アナログを適切に組み合わせて、リアルな学びを支援するように事業を展開してまいりたい。</p>